

平成24年3月の解説（週間天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は、本州の南岸沿いを通過した低気圧や前線の影響により、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。特に東日本の太平洋側では、記録的な寡照となり3月上旬としては統計を開始した1961年以降、最も日照時間の少ない値を更新しました。

中旬は、天気は周期的に変化しましたが、旬の前半と終りに冬型の気圧配置となりました。北日本から西日本にかけては、寒気の影響を受けて気温が低く、日本海側を中心に曇りや雨または雪となり、太平洋側を中心に晴れた時期がありました。沖縄・奄美では、寒気や前線の影響により、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、天気は短い周期で変化しましたが、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、北日本と東日本の日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東日本の太平洋側と西日本では晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。また、旬末は日本海から北日本を低気圧が発達しながら通過した影響で、北日本と東日本の太平洋側を中心に、広い範囲で荒れた天気となりました。

月平均気温は、北日本で低くなりました。東・西日本は平年並でしたが、日々の気温では寒暖の変動が大きくなりました。沖縄・奄美では高くなりました。月降水量は、東日本の日本海側でかなり多く、北・東日本の太平洋側、西日本で多くなりました。北日本の日本海側では平年並で、沖縄・奄美では少なくなりました。月間日照時間は、北日本の太平洋側でかなり少なく、北日本の日本海側、東・西日本で少なくなりました。沖縄・奄美では平年並でした。

【3月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より6ポイント高い75%でした。地方毎の適中率は例年値と同じか例年値より高くなり、関東甲信地方、東海地方、九州北部地方及び九州南部地方で10～13ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値程度か例年値より小さく、東北地方と関東甲信地方で例年値より0.7～0.9小さくなり、全国平均では例年値より0.4小さい2.3になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も、全国的に例年値程度か例年値より小さく、全国平均では例年値より0.2小さい2.0になりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、日本の南海上に前線が停滞するようになるため、平年では南西諸島は他の地方より一足早く梅雨の時期に入ります。この前線が本州南岸付近まで一時的に北上して停滞すると、東日本や西日本でも数日の間、曇りや雨の日が続くことがあり、時には大雨となることもあります。向こう一週間先までの間に屋外での活動等を予定している場合は、週間天気予報の日々の予報を利用して計画を立ててください。